

平成29年3月27日

豊川市議会議長 太田 直人 様

産業建設委員長 柴田 訓成

### 産業建設委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務についての調査結果を報告いたします。

#### 1 調査項目

##### (1) 観光振興について

本市の公園整備事業や今後の豊川市平和公園（仮称）基本計画を進めていく状況のなか、他の自治体で様々な取り組みがなされており、本市にも参考になる事が多く今後の重要事項であると考え、調査を行いました。

##### (2) 密集市街地の再生に向けた取り組み並びに空家対策について

本市の総合計画を進めていく状況のなか、密集市街地整備事業や空家等対策計画の策定を目指して協議会を設置し取り組みを進めており、密集市街地や空家等の取り組みが重要事項と考え、調査を行いました。

#### 2 調査内容

別紙〈調査経過〉のとおり、本市の現状把握及び先進都市の視察を行いました。

#### 3 調査結果

##### (1) 1-1 石橋記念公園について

###### ①本市の現状

1993年7月、豊川市制50周年を記念して建設された赤塚山総合公園があり、面積は25.1ヘクタール（ナゴヤドーム約5個分が入る大きさです。園内には、東三河唯一の淡水魚水族館（ぎょぎょランド）や、動物と触れ合うことができる小動物広場（アニアニまある）など、いくつかのエリアに分かれ、水遊びや、季節の花や、歴史など市民が気軽に集い、ふるさとの身近な自然を楽しめるリラックススペースとして広く親しまれており、県内外からの来園者も多く、遊んで学んでくつろげる公園となっています。

また、豊川市平和公園（仮称）基本計画では豊川海軍工廠の戦争遺構を保存していくため、歴史的遺産として保護し、後世に伝えるため歴史を学ぶ場として活用し平和の尊さを次世代へ語り継いでいくため、象徴的な場づくりを行うとともに、戦争の風化を防ぐ活動拠点としていく予定であります。

## ②先進都市の状況

石橋記念公園は鹿児島県鹿児島市浜町にある都市公園（1.8ヘクタール、総工費約100億、指定管理制度）で、江戸時代後半に島津重豪の命により城化整備の一環として、市内を流れる甲突川にかけられた5つの石橋のうち3つを移設した公園とその博物館から成り立っています。

1993年（平成5年8月6日）、鹿児島県集中豪雨による洪水のため、江戸時代後期より現存していた「五石橋」と呼ばれる玉江橋（たまえばし）、新上橋（しんかんばし）、西田橋（にしだばし）、高麗橋（こうらえばし）、武之橋（たけのばし）の石橋群の内、「武之橋」と「新上橋」が流失し、他の三橋も甚大な被害を受けました。

この後、橋を洪水のない場所に移築するか、現状回復するかで大問題となったが、結局、残った三橋は別の場所に移築することとなり、2000年（平成12年）に石橋記念公園として開園した。橋の移築では交通や河川整備と史跡保護の兼ね合いの難しさが証明されました。

公園内の移設された西田橋の下には人口川が造られ、無料ということもあり子どもたちの遊び場であり、市民の憩いの場となっており、西田橋と御門は午後9時までライトアップされています。

石橋記念館には甲突川と五石橋の歴史や、石橋の構造が学べるコーナーなど、分かりやすい資料と大型マルチ映像・ジオラマ・ミラービジョンを使って架橋技術について展示、解説されています。石橋記念公園から出土した遺物や、移設・復元に関する資料など、石橋にあまり関心のなかった人でも楽しめる、興味深いスペースとなっています。

また、石橋記念公園では毎月季節に合わせたイベントを開催し、来場者が楽しんでおり、毎月第4土曜日には、子どもたち（小学5年生～中学2年生）が無料で案内してくれる『こどもガイド』が石橋記念公園内部を親切に教えてくれるイベントが催されています。

### ③総評

江戸時代後期から平成5年まで実際に市民の生活の中で親しまれ、交通の要として使用されていた、鹿児島市の歴史的建造物である石橋を移築し、その歴史を後世に伝えていく公園を視察しました。

現在、豊川市でも戦争の悲惨さを忘れず、平和の大切さを伝えていくために海軍工廠跡地に整備が進められている平和公園にも今回の視察を活かすことが出来る点が多くありました。

歴史的なものを遺す際には、ハード面であるそのもの自体を当時の状況が把握できるようにしっかり保存する点、そしてソフト面である『伝える』という点では、石橋記念館では展示においてマルチ映像、ジオラマを使い館内の説明者の育成がしっかりとされておりました。また、毎月第4土曜日に行われている『こどもガイド』は後世に伝える観点からみますと、大変参考になる取組みであります。

そして、石橋の歴史を学びに来るだけではなく、市民の憩いの場となる水辺スペースが設けられており、何度でも足を運んでもらえる公園となっている点について、公園のあり方として歴史的遺跡を保存する公園という要素の大切さと、市民の憩いの場としての要素の大切さを併せ持つ石橋記念公園を今回視察させていただき、平和公園をはじめとする今後の豊川市の公園等施設の参考に活かしていきたいと思っております。

## (1) 1-2 金立公園について

### ①本市の現状

#### 1-1 ①と同じ

### ②先進都市の状況

金立公園は佐賀市の北部、金立山の麓の長崎自動車道金流サービスエリアの周囲にあり、全体面積が27.4ヘクタール(25.91ヘクタールを現在供用)の総合公園です。公園には、金立サービスエリアから徒歩で自由に往来することができ、春には5,000本の桜や菜の花、秋には33万本のコスモスが咲き誇り、花やみどり豊かな公園です。

#### \*金立山いこいの広場

約5ヘクタールの敷地内に丸山遺跡、宿泊施設バンガロー、バーベキュー炉、センターハウス(研修室など)、草スキー場(全長80m)、トリムコース(レインジャーロープ、クライミングロープなど全コース27ポイントのトリムコース)などが、あります。

#### \* 徐福長寿館

中国の方士・徐福は、不老不死の薬を求めて日本に訪れ稲作を始めとする様々な文化を伝えたと言われる人物で、日本の各地には様々な徐福伝説があります。稲作の大量栽培の発祥地と言われる佐賀にも多くの徐福伝説が残されており、佐賀の金立神社では農業の神として祀られています。金立山山麓にあるこの徐福長寿館では、多くの展示品や解説員により徐福伝説を紹介するとともに、徐福研究の最新情報を発信しております。

#### \* 薬用植物園

約3ヘクタールの園内に約500種、約5万本の薬草木を植栽しています。緑豊かな金立山をバックにした園路は全長4kmにもおよび、ゆっくり散策すると約1時間かかります。他に裸足で歩いてツボを刺激する全長100mの健康歩道「千反の道」もあります。

### ③総評

佐賀市の高速道路サービスエリアから来園できる公園施設として、豊川市も2つのインターチェンジと1つのサービスエリアを有する市として視察をさせていただきました。

サービスエリアからの来園者には公園のみならず、佐賀市の魅力を伝えることを目的とされているとのことのお話がありました。しかしスマートインターチェンジではないので車で出ることが出来ないため、佐賀市全体での観光に繋げる点においては少し弱い部分があるようです。

宿泊のできるバンガローにバーベキュー炉、子ども達の遊ぶ施設も充実しており、徐福長寿館に古墳、5万本に及ぶ薬草木の薬用植物園もすばらしく、これほどの規模であればサービスエリアを利用し多くの人を呼ぶことが可能であるとのことでした。豊川市に置き換えて考えてみますと、赤塚サービスエリアと赤塚山公園という条件も今後の豊川市への来訪者増加という点において、金立公園を参考にできる点は多々あり、大変見どころのある良い視察となりました。

豊川市においてもサービスエリアを活用して観光、来訪者を呼び込み、例えば市内の観光各所をコミュニティバス等を利用して巡ってもらうなどし、交流人口の増加、そしてその先には豊川市の定住人口の増加を目指し、今ある資源を最大限に活用し活気あるまちづくりが行われるよう産業建設委員会として今回の視察を活かしていきたいと思っております。

## (2) 密集市街地の再生に向けた取り組み・空家対策について

### ①本市の現状

市では、地震災害時に大きな被害が想定される木造密集市街地の改善を図るため、平成26年度から密集市街地整備事業を実施しています。市街化区域内の災害危険地域の調査に基づき、地域が主体的に防災まちづくりに取り組むモデル地区として牛久保地域を選定しました。

また、平成28年8月より空家等対策を総合的かつ計画的に推進するための取り組みの一環として、豊川市空家等対策協議会を開催しています。

### ②先進都市の状況

長崎市も全国的な少子高齢化が進んでいるなかで、戦後から高度成長期にかけての急激な人口増加に対して、長崎市では平地が乏しく、斜面地への市街地拡大が余儀なくされました。そのため、近年の社会背景から「斜面市街地のまちづくり事業」に取り組んでいます。

また、空き家に関しては、市民の安全と安心と生活の向上、利便性を高めるために、長年にわたって使用されず、適正に管理されていない老朽危険空き家のうち、所有者からその建物及び土地を市に寄附されたものを除去することで、住環境整備等の推進に資することを目的としています。

#### ◇斜面市街地再生事業

##### ・事業の内容

施行地区：十善寺地区はじめ8か所

施行面積：177.1ha

事業費：約221億円

事業期間：平成7年度～平成31年度

施設場所：生活道路、公園・広場、都市再生住宅、建替促進等

進捗率：47.7%（平成27年度）

#### ◇斜面移送システム

##### ・垂直エレベーター事業の内容

施行地区：都市計画道路南大浦線

延長：L=18m、(高低差H=18m)

事業費：約3.2億円

事業期間：平成13年度～平成14年度

##### ・斜行エレベーター事業の内容

施行地区：都市計画道路南大浦線

延長 : L = 160 m、(高低差H = 50 m)  
事業費 : 約13.9億円  
事業期間 : 平成9年度～平成13年度

◇吊下型簡易移送機器 (リフト)

設置個所 : 3か所  
延長 : 約50～60 m (高低差H = 20 m)  
事業費 : 約3千万円/基

③総評

長崎市の「密集市街地の再生に向けた取り組み」と「空き家対策」は、地域の特性(斜面密集市街地)に合った事業となっています。密集市街地再生の進捗率が50%に留まっているのは、所有者との交渉と高齢化による建替えに伴う自己資金調達等に躊躇してしまうとのことでありました。事業開始から20年経過すると現在とのギャップがあると考えられます。今後、道路整備等の拡幅は3m以上の道路用地買収を伴わない、空き家対策を活用した空地の確保やリフォーム、耐震化の推進を図ることでありました。豊川市においても長崎市とは異なるがコンパクトシティ推進による高齢化・限界集落化は確実に進むと思われれます。豊川市も「空き家対策協議会」が開始されるなか本市の実状に合った「街づくり」対応が求められています。

4 産業建設委員会からの提言

(1) 観光振興について

赤塚山公園は、自然豊かな立地にあり四季折々の花々や、動物とのふれあい、家族づれにも楽しめる多くの施設があり、心身共に癒されるオアシスになっております。さらに無料で楽しめるお財布にも優しい事業であることから、他の地域からも多くの来園者で賑わっております。

そんな中、赤塚山公園は東名高速道路の赤塚山パーキングの近くに隣接していることから金立公園と同様のハイウェイオアシスやスマートインターチェンジのような事業をされると更に遠方からの来場が見込まれ、多くの魅力を発信出来ると考えます。

第二東名が開通をし、豊川を通過することもなくなり知名度が下がりつつある中、次の手を打っていかねばどんどん埋没をしていくと考えます。

今やテレビやマスコミなどでも高速道路のサービスエリアの特集も放映されており、近隣市町での知名度はうなぎのぼりで上昇していることを考え

ると、ハイウェイオアシスやスマートインターチェンジを新設することにより本市にとっての魅了度アップにも大きく繋がる好機となりますし、今後の豊川市平和公園など多様な観光振興を考えると県外からの交通ルートやアクセスを考慮し、整備・実現に向けて取り組むべき事業と考えます。

## (2) 密集市街地の再生に向けた取り組み並びに空家対策について

密集市街地は災害時の被害を減災へと取り組みを進めており、豊川市空家等対策協議会を開催しています。そのような状況の中、地域の実情に合わせた取り組みを進めていくため本市としてもコンパクトシティなどを進めておりますが、今後の調査研究を踏まえ柔軟な取り組みをお願いします。

また、空家対策も関連して取り組まれておりますが、所有者との課題解決や地域ニーズにあったマッチングへつなげていただくため、空家の活用に向けた行政、地域、関係団体等の連携と必要な情報を提供して周知をして頂きたい。そのうえで、空家を活用したまちづくりと空家化を防ぐ地域での価値や意識の向上に努めていただき、空家所有者の適正管理と行政による空家の適正管理・除却に向けた指導體制の強化をお願いしたい。

今後の空家問題は戸建住宅に限らず、集合住宅などにおいても同様に課題が増加していくと考えます。特に築年数が経つにつれより維持管理や建て替え費用が確保できず、管理・入居がスムーズに進んでいかない共同住宅独自の課題も生じており、今後の重要な課題であると考えます。

## 別 紙

### 〈調査経過〉

平成28年7月26日(火)～7月28日(木)

#### 視察の実施

平成28年7月26日(火) 鹿児島県 (鹿児島市)

「石橋記念公園について」

平成28年7月27日(水) 佐賀県 佐賀市

「金立公園について」

平成28年7月28日(木) 長崎県 長崎市

「密集市街地の再生に向けた取り組み・空家対策について」